

# ゆたかとシンジ

textband



- シンジ      なぁ、おまえ、最近元気ないな。
- ゆたか      自転車盗まれて歩いてるヤツに言われたくないよ。
- シンジ      自転車のことはもういいよ。あの状況じゃ仕方ないだろ。
- ゆたか      警察に届けたほうがいいって。だって、最初から言ってることがおかしいよ、あのおばさん。まあ、君の自転車だから君の自由だけど。
- シンジ      とりあえず、アレ見てみろよ。ヨボヨボのおじいちゃんがバック転してんぞ。
- ゆたか      え？バク転！？そんなのいないじゃないか……。ねえシンジ、君はなんでそうやって自分の都合が悪くなると嘘ついて逃げようとするんだよ。いつもそうだろ。僕たちはもう高校生なんだよ...？いい加減しっかりしないとダメだよ。
- シンジ      そういうゆたかこそ、なんでもかんでも真面目にとらえすぎだぞ。来年から受験勉強でイヤでもちゃんとしなきゃいけないんだから今年はテキトーに過ごすって決めたじゃないか。
- ゆたか      .....。でもとにかく自転車は取り返さないと。気になって仕方ないよ。テキトーに過ごす心の準備ができない。
- シンジ      まあ、足がないのは正直キツイ。やっぱ警察かぁ？
- ゆたか      警察？被害届でも出すのかい？たぶん、そんなんじゃ一生取り戻すことはできないよ。もっと積極的に、こっちから攻めないと。
- シンジ      おまえが警察に届けろって言ったんじゃねーか！
- ゆたか      概念としての"警察"のことだよ。いいかい、ここで言う自転車も警察も、すべては概念なんだよ。魂と言ってもいい。君は自分の魂を、あのおばさんに売ってしまったんだ。警察は民間人の魂までは捜してくれないよ。
- シンジ      .....なに？概念？魂？
- ゆたか      テキトーに言ってみただけだよ。ひっかけ問題。で、どうすんの？お腹空いてるんですけど僕。
- シンジ      そうだな、俺も腹減ってるし、たぶん自転車はまた駅前の駐輪場にでも乗り捨ててあるだろうから、とりあえず駅に向かって歩いて、途中でラーメンでも食うか。
- ゆたか      またあれでしょ？なんだっけなー・・・あっ“ラーメン絶壁”！

シンジ そうそう"絶壁"！お前行ったことないよな？あそこの断崖ラーメンてやつが美味しいんだ。チャーシューの代わりにサラミ入ってるの。

ゆたか えっ、サラミはなるとのかわりでしょ？チャーシューのかわりはせんべいじゃない？

シンジ それは"絶壁"に対抗して近くにできた"鉄壁"な。もう去年つぶれてるって。古い古い！情報古いよゆたかキュン！だからモテねえの。

ゆたか 29回連続でフラれてる人に、「モテない」なんて言われたくないよ。

シンジ ノンノンノン、ゆたか、知ってるか？「ふられたぶんだけ、最後にでっかい幸せが待っている」んだぜ？言わば俺は、壮大な前フリをしてるわけ。

ゆたか オカルトですね。完全にオカルトですよ。...あ、思い出しちゃった。学校の変なウワサ。

シンジ ウワサってどんなの？教頭先生が本当はロボット、とかそういうやつか？

ゆたか おお！矢張りシンジ氏（うじ）はご存知でござったか。さすがは校長先生の御子息でござりまするな～。ニンニン。

シンジ うるせーな、その話は今関係無いだろ。オヤジの話するんじゃないよ。

ゆたか ...あのさ、すごく言いにくいことではあるんだけど、君...ほんとにシンジくん？

シンジ な、なんだよいきなり！そんな目で見るのはやめろって！ていうか今教頭先生の話してたんだろ。それで？先生はロボットだったのか？

ゆたか だってほら、ロボットの教頭先生に記憶を消されてしまうっていう話だろ？そして君のお父さんは校長先生じゃないか。あとは察してよ。

シンジ つまり、校長が、何らかの意図を持って、教頭をロボットにすり替え、人々の記憶を消している。どんな目的があるのかは分からないけれど、人の記憶を勝手に消すなんて、そんなこと許されない。僕たちは、真相を突き止め、校長を止めなければならぬ。例えそれが、父親であろうと...

ゆたか シンジくん...やっぱりオカルトでしょ。ねえ。...ってシンジくん！シンジくん！シンジくん！！

シンジ おはよう！

- ゆたか おはよう！
- シンジ ……。
- ゆたか ……。
- シンジ 駅……遠いな……。
- ゆたか …シンジくん、なんでさっき、いきなり「おはよう！」とか言い出したの？ぼくもうっかりつられちゃったけどさ…。
- シンジ あ、ああ、「おはようリセット」って言うらしい。ケイタロウのマネな。…それはそうと、駅ホントに遠いな…。
- シンジ あれ？ゆたか、あんな店あったっけ？
- ゆたか え？どこ？どれ？「スポーツ食堂」ってやつ？
- シンジ うん。なんだろうスポーツ食堂って。ラーメンやめてこっち入ってみる？
- ゆたか そうだね。この食堂も、いつなくなっちゃうか分かんないもんね。あと、僕たちの命。
- シンジ 早速、スポーツ食堂で命を落としたりしてな。
- ゆたか 縁起でもないこと言わないでよ。…ん？「エビライトフライ定食」??これにしようかな？
- シンジ じゃあ俺はチャランボ定食にするかな。まあとりあえず入ってみようぜ。
- ゆたか ちょっと待って。このドア、何？どうやって開けるの？レバーみたいのいっぱい付いてるんだけど…。
- シンジ どれが正解だろうな…でも、ぜんぶ試せばいいんじゃない？おいゆたか、やってみようぜ！
- ゆたか えーと、えーと、こういうときは、直感で一番上のを、っと……あ、開いた！……と思ったら、また扉だ！
- シンジ よしっ！じゃあ俺はいちばん下から試すわー。そうだ、先に正解を見つけた方に奢るっていうルールにしようぜ！よーい、スタート！
- ゆたか 面白そうだけど、ちょっと怖くなってきた…。だって飲食店でこの感じ？大丈夫かな。

シンジ      べつに危険はないだろ、食堂なんだから…。そういえば『注文の多い料理店』ってこんな話だったよな、いくつも扉通って行くんじゃないか？ちゃんと読んだことないからよく話知らないけどさ。

ゆたか      うーん、でもあれはたしか、むしろウエルカムな雰囲気の話が進むから、今回とは違うんじゃないかな～。

シンジ      あ、開いたぞ！ってあれ、また扉だ…。ふーん、ウエルカムねえ…。それで、最終的にその料理店に入ってたお客達はめでたく食事にありつけるの？

ゆたか      あ、それ聞いちゃう？たぶん自分の目で確かめたほうがいいと思うよー…って、あいたの！と思ったら、また扉！なんなんだろうね、この店。

シンジ      あのさ、スゲーこと言っちゃっていい？扉の数もそうなんだけどその前に、なんだその、立地面積？外から見た建物の面積が無視されてるよな…。ここまさか異次元？

ゆたか      ……確かに変だな。一体どうなっているんだろう？ていうか、僕はだんだん来た道に戻りたくなってきたよ…。

シンジ      待て、待て…おい、何かいい臭いがするぞ！！

ゆたか      くんくん…カレーだ！しかもこのスパイスの香りから察するに、かなりの本格派だよ！やるなスポーツ食堂！これはカレー好きの血が騒ぐ！

ゆたか      「スポーツドリンク」って書いてあったのは、普通にスポーツドリンクなのかな。

シンジ      そういや、「スープ・レックス」ってのもあったか。

ゆたか      でもすごいねこのお店、いまどき全メニュー300円なんてできないよ。

シンジ      それ思った。でもそう考えると「スポーツドリンク」は、けんちん汁的なものなのかもしれないな。

ゆたか      …シンジくんってさ、なにかにつけてそれ言うよね。何度も言うけど、「けんちん汁的なもの」って、それ別に、褒め言葉じゃないからね。

シンジ      えっ！それ言っちゃう？「おでん的なもの」じゃピンと来ないだろ！？おでんでご飯が食べられますか？ませんか？ませんだろー、そこは。「肉じゃが的なもの」も論外だし。ご飯との調和？そう！調和の話！

ゆたか      調和…ハーモニー…ぼくらを育む世界の真理……。ハッ！そうか、分かったよシンジくん、校長先生、つまり君のお父さんがなぜ教頭先生をロボットにしたのかを！

シンジ え、今の話で解るの？一応聞いてあげるけどさ.....、でも普通に考えてロボットとかそもそも嘘だと思うぜ俺.....。

ゆたか その様子だとシンジくん、俗世界ナデシコのアルバム、まだ聴いてないんだね。ラップが聴きたいって言うから貸したのに...。ぼくらを育む世界の真理！ぼくらを育む世界の真理！

シンジ いや、ひとつお聞きしたけどさあ、俗シコって結局レモネード昆布巻きのフォロワーっつーかさ、言っちゃえば二番煎じじゃない？「ぼくらを育む世界の真理」で歌ってることだって、もう20年前に田中・L・コウザブローが「UKIYO the distance」で言ってるし。

ゆたか えっ？シンジくん、コウザブロー知ってるの？驚いた。意外ー！

シンジ おふくろが好きなんだよ。ほとんど子守唄だったね。そのせいか知らないけど、いっつも眠くなっちゃうんだよね、コウザブローの声を聴いてると。っと、うだうだしゃべってないで、そろそろ、行こうぜ。

ゆたか ああ...そうだったそうだった。カレーの匂いもずいぶん強いし、いいかげんに扉も最後なんじゃないかな。次の扉か、その次の扉か、そろそろ定食にありつきたいねえ。

シンジ 腹減りすぎて気持ち悪くなってきたわ...。注文してすぐに料理が出てくるとも限らないから急ごうぜ！

ゆたか ちょっとまって、レバーはこれで最後だから多分これで開くはず.....なんだけど.....あれ...？んん.....よし！開いた！

シンジ おおっ、ついにこのドアから店内に入れるのか！？ん？...「左の券売機で食券をお買い求めください」って書いてあるな。

ゆたか 本当だ！意外とたくさんあるね、メニュー。...ん、シンジくん、これ、お金入れるところ、ないよ。

シンジ んなわけねーだろって.....ってやっぱないな...店の人呼ぶしかないか...すいませーん。すいませーん！すいませーん！！

ゆたか すいませーん！すいませーん！これお金入れるところないんですけどー！すいませーん！

シンジ ...あ、この受話器みたいなやつで問い合わせるシステムなのか？こういうの得意だろ？ゆたかやれよ。

ゆたか すいませーん！！あのー！これー！お金入れるところがー！無い

んですけど————！お店の人いませんか————！すいませ————ん！

シンジ わっ！ビクッた！ビクッたし実際。山びこかよ！声でかいて、ゆたか。もっとソフトに普通に喋って大丈夫だと思うぞ。…ん？誰か出た？どう？

ゆたか シッ！なにか聞こえる…！遠くの方から、誰かの叫び声と、すすり泣くような声…シンジくん、こ、こ、これって、ももももしかして！

シンジ えっ？…ヤバイ系？いいよいいよ、とにかく落ち着いて普通にもっと話せ話せ。食券だよ食券のこと！

ゆたか あの…もしもし？あ、あの僕、しょ、食券でいいシステムだなんて思うんですよ。店員と話すのが苦手な客だっているっていうか……に、人間誰とも喋りたくない時もあるっていうか……いや、違いますよ！だからって僕が店員さんと話すのが嫌だってわけじゃないんですけど…も、もしもし？

シンジ あっ、おいゆたか！なんかいまいきなり食券のボタンが全部点灯したぞ！これ押しばいいんじゃない？

ゆたか ほんと！？あっ光りましたからもう大丈夫…あ、切られちゃった…。なんか向こうの人、女の人なんだけどいきなりすごい怒ってて、お店の人じゃなくて管理会社の人？かな？すごい怒って今からこっち来るって。

シンジ そりゃ怒るかもね、誰が食券のシステムについて話せて言ったんだよ……。まあいいや、注文できそうだしとりあえずボタン押ししてみろよ。シンクロナイズドカレーだっけ？

ゆたか ごめん、ほら、刑事モノのドラマなんかにある逆探知みたいなイメージがパッと浮かんじゃってさー、話す内容にまで意識が回らなかったよ。僕はシンクロナイズドカレーとスポーツドリンクにする。

シンジ よし、じゃあ俺はシンクロナイズドカレーとスープ・レックスにするわ。ええっと、どこだどこだ…あ、あった。よっしゃ、ポチッとな、っと。頼むぜ大将～。

ゆたか いてっ！！！！何か！何か頭の上に落ちてきた！！いて～……なんだろうこれ……あ、あれ…これもしかしてカレーとスープじゃないの……？こぼれちゃってるけど……。

シンジ ゆたか後ろっ！ドア！ドアが閉まる！…ってかもう、閉まっちゃったな。どういう事だよこれ…。

ゆたか ん？あれ？…この状況、俗世界ナデシコ、の『アグリカルチャー』にちょっと似てない？





- シンジ え...、『アグリカルチャー』って廃盤になったアレだろ。聴いた人間がみんな発狂するっていう...。ゆたか、まさか聴いたのか？
- ゆたか ん、聴いたけど？でも別にどうってことなかったな。初期のアルバムだから音声荒くて少し奇妙な感じがしたけど、それくらい。普通の曲で拍子抜けしたくらいだよ。
- シンジ まず心霊みたいな声で「すいませーん！！すいませーん！！」ってのが聞こえるらしい。で、それが徐々に「助けてくださーい！！」とか「許してくださーい！！」になって、最後はグチャグチャって気持ち悪い音だけになるんだってよ。人が動物が殺されてるって噂。
- ゆたか な、なにそれ？気持ち悪いね...、でもそんなのなかったけどなあ。気になったことといえば最後に10分くらいサーってノイズの音だけが流れてたことくらいだよ。
- シンジ そうなのか...。でも、ゆたかはどうしてこの状況が『アグリカルチャー』に似てると思ったわけ？
- ゆたか 4分あるBメロにさ、「用意された道などない／調理された食材もない／くすんだ視界のねがいごと／盗んだ誓いの世迷い言」っていう歌詞があるだろ？あれ、ここのことだとしか思えないんだよね。
- シンジ ふうむ、似ているような似ていないような.....なんだか気になるな。お前今iPod持ってないの？曲入ってるんだったらちょっと聴かせてくれよ。
- ゆたか 持ってるよ、ちょっと待ってて。...シンジくんやっと覚えたね、iPodの正式名。はい、どうぞ。
- シンジ サンキュー.....うわ気持ち悪いイントロだな。じゃ、俺ちょっとこれ聴いてるからゆたか君はさっきの電話機みたいので助けを呼んでおいてくれたまえよ。これでも閉じ込められちゃってるんだからね僕ら？
- ゆたか 分かりましたよシンジさん、っと。いい加減おなかも空いたしね。もしもーし、もしもーし、誰かいませんかー！.....え、いま「助けてください」って聞こえたような...。
- シンジ .....ンン〜ン〜♪
- ゆたか ...あ！そういえばさっきの、すごい怒ってた女の人、こっちに来るって言ってたよねえ！待ってればその人がドアも開けてくれるんじゃないかなあ。って聞こ

えてないか、シンジくん。音漏れすっごいな…。

シンジ ペ～レレ～、ペッペレ～、レレ～レ～♪

ゆたか あっ、ここの鍵穴から向こう側が見える！すいませーん、閉じこめられちゃったんですけどー！おーい誰かいませんかー！助けてくださーい！

シンジ フンハッ フンハッ♪

ゆたか えっ、フンハッ、なんてところあったかな……。いや、ンン～ン～もペ～レレ～もないでしょ。違うの聴いてるんじゃないの？ねえ！！シンジくん！！それー！！たぶんー！！ちがうー！！曲ー！！だよー！！

シンジ えー！？なにー！！聞こえーん！！許してくださーい！！とかもぜんぜん聴こえないよなー！！これー！！

ゆたか でかいよ声！！ちょっと！イヤホン外して！！イ、ヤ、ホ、ン！は、ず、し、て！

シンジ フンハッ フンハッ♪

ゆたか うう…いきなり大声出したから酸欠で気持ち悪くなってきた…。ああ……視界がぼやけていく…シンジ君…イヤホン外して…。

シンジ パッポロ～ポロパッポロ～♪ゆたか、変な声とか全然入ってないじゃんか……ってなにぐったりしてんのおおおお！大丈夫かあああああ！誰にやられたんだ、言ってみろ！おまえのカタキは、必ず俺がとるからならな…ッ！

ゆたか ……………。

シンジ ゆたか、なあ、ゆたか、冗談だろ？ついさっきまで話してたじゃんかよ、意味わかんねえよ、俺が『アグリカルチャー』を聴いてたせいか？なんだよ、どういう流れでこんなことになるんだよ…ちくしょう！ちくしょう！ちくしょう！

ゆたか ……………。

シンジ ゆたかっ！！おいっ！！ゆたか～～っ！！盗まれたチャリ、一緒に探してくれるって言っただろお！！おい！！一緒に探してくれるって言ったじゃないかよお！！

ゆたか ……………。

シンジ おい、おーい、おい！おーーーーい！！！！…心臓動いてるか…？！？！

ゆたか うう、シンジ君…。ごめん……。

シンジ ゆたか！よかった、生きてたか！俺もうお前死んじやったかと思って……俺…

...うっ...うっ...

ゆたか ごめん.....君の自転車を盗ったのは僕なんだ.....

シンジ .....

ゆたか あのときのおばさんと僕は、もう6年も交際してるんだ....

シンジ 交際って、付き合ってるっていう意味での交際？カノジョ？

ゆたか まあ、.....そうなる、のかな？

シンジ えぜんぜん意味わかんない、えぜんぜん意味わかんない。おばさんとの馴れ初めから自転車パクるまでの流れ、説明しろよ。短めでもいいから。

ゆたか おばさん—ユミコって言うんだけど—とは、6年前、近所の公園でやってた夏祭りで出会ったんだ。当時僕はまだ小学生で、あの頃はまだ体も弱かったから、家でおとなしく過ごすことが多かったんだ。

シンジ ふんふん、それで？

ゆたか その日も家で本を読んでいたんだけど、窓の向こうに、わっしょいわっしょい神輿を担いでる人たちがいてさ。その中で、屈強な男どもの中で輝いていたのが、ユミコなんだ....

シンジ ああ、なるほどな。それ、俺もいたけどな。

ゆたか ユミコは、外から僕のこと気付いてくれて、ウインクしてくれたんだ。今でも忘れられない、僕はあの時、恋に落ちた。ユミコはあの頃48歳だったから、40歳弱の年の差があったわけだけど、そんなの、まったく関係なかったんだ...んだ...んだ....（残響音含む）

シンジ 分かった。俺はそういうの差別っていうか偏見ないから、いいんじゃないか？むしろ応援する。俺はお前の友達だからな。でもよ、お前はなんでその、友達である俺の自転車パクってんだよ！

ゆたか シンジの自転車、ほしかったって...もう亡くなっちゃったんだけど、ユミコの子供が、同じ自転車に乗ってたみたいで、思い出した途端、いてもたってもいられなくなったって....

シンジ .....

ゆたか でも、あれ以来、ユミコ、ふさぎこむようになって...。それで、今日、ちゃんと謝って、自転車も返そうと思ってたんだ...けど...こんなことになるなんて....

シンジ そうか……ごめんな、ゆたか。……とでも言うと思ったか！おばはん、ユミコ、いやユミコさんのツライ気持ちも分かる。分かるけど、それ完全に俺、関！係！ない！

ゆたか アハハ！嘘だよ、嘘。シンジ君、新しい自転車が欲しいって言ってたでしょ？僕とユミコで相談して決めたんだ。最高のタイミングで自転車をプレゼントしようって。

シンジ え？嘘？どこからどこまで？もう意味わかんねーよおー！

ゆたか 正直に言うとき、伏線ぜんぶ回収しようと思死なんだよ…。

シンジ こら！ゆたか！それはあかん、それだけは言うたらあかん！

シンジ 伏線？なんのだよ？

ゆたか 僕とユミコが書いたシナリオの伏線だよ。

シンジ そんなのふたりでやってくれよ！関係ない人間を巻き込むな！悲しい、おれは悲しいぞゆたか！

ゆたか シンジ君、今日が何の日か忘れたの？

シンジ …へ？

ゆたか よし、ユミコが新しい自転車で外に着いたようだね。シンジ君、お誕生日おめでとう！